

富田牧子 チェロコンサート“ガット（羊腸）弦の魅力”～ミエザホール・シリーズ その1
ギタリスト 塩谷牧子を迎えて
2020年12月13日（日）14時開演

プログラム

真心もて、おお人の子らよ

Mit Ernst, O Menschenkinder

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番ト長調 BWV 1007

J.S.Bach (1685-1750): Suite a Violoncello solo senza basso n.1 in sol maggiore BWV 1007
前奏曲／アルマンド／クーラント／
サラバンド／メヌエットI, II／ジーク

J.S.バッハ：われ汝に呼ばわる 主イエスキリストよ BWV 639

J.S.Bach: Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ BWV 639

J.S.バッハ：カンタータ「神の時こそいとよき時」 BWV 106 よりソナティナ

J.S.Bach: Cantata “Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit” BWV 106 - Sonatina

～ 休憩10分 ～

フェルナンド・ソル：宗教的な祈りの楽章

Fernando Sor (1778-1839): Mouvement de prière religieuse

フランツ・シューベルト：『冬の旅』より「おやすみ」

Franz Schubert (1797-1828): Gute Nacht aus “Die Winterreise” D 911 op.89 Nr.1

F.シューベルト：アルペッジョーネ・ソナタ

F.Schubert: Sonate für Arpeggione und Klavier D821

I. Allegro moderato / II. Adagio / III. Allegretto

本日演奏する曲の紹介 富田牧子

待降節（アドヴェント）の第3日曜日（今日です！）にキリスト教会の礼拝で歌われるコラール「**真心もて、おお人の子らよ**」。元となるフランスの旋律に、16世紀ドイツでペストが流行した際、「**われは神より離れまじ Von Gott will ich nicht lassen**」の詩がつけられ、バッハはこのコラールによる作品を残しました。コラールとはプロテスタントのルター派教会で歌われる賛美歌のこと。宗教改革以前カトリックのミサの中で会衆は歌うことはできませんでしたが、ドイツではルターが作ったドイツ語による賛美歌によって誰もが歌えるようになりました。

J.S.バッハの前奏曲と5つの舞曲から成る6つの**無伴奏チェロ組曲**は彼が1720年前後にケーテンの宮廷に仕えていた頃、ヴァイオリンの無伴奏作品と合わせて書かれました。他の楽器の伴奏（通奏低音）の役割から、独奏楽器として可能性を広げつつあったチェロは、バッハによって更に音楽表現が深まりました。当時の演奏様式の観点から、バロックの調整によるチェロと弓で演奏します。

ここから先、ギターとのアンサンブルはモダンチェロとの組み合わせで演奏します。

「**われ汝に呼ばわる 主イエスキリストよ**」は1710年代にワイマールで書かれた「オルガン小曲集」に収められているコラール前奏曲の一つ。

追悼行事と呼ばれる葬儀のためのカンタータ「**神の時こそいとよき時**」の第一曲ソナティナは、原曲では2つのリコーダーと2つのヴィオラ・ダ・ガンバ、通奏低音によって演奏されます。

後半のはじめはギター独奏、フェルナンド・ソルの「**進歩的な練習曲**」に収められた「**宗教的な祈りの楽章**」で、この楽器特有の音色をお楽しみください。ソルはスペイン（カタルーニャ）のバルセロナ生まれのギタリストで作曲家。塩谷さんによると、内面的な音楽であり、生きた年代が重なるシューベルトとは共通点を感じる、とのこと。

ウィーンで生まれ育ち、31年の生涯を過ごしたフランツ・シューベルト。1827年、死の前年に書いた『**冬の旅**』は、『**美しき水車小屋の娘**』と同じミュラー（この詩人はこの年に亡くなります）の詩による連作歌曲集。第一曲「**おやすみ**」では、恋人と別れ、温かな思い出を後に、冬の暗闇を孤独の旅路へ歩き出す若者の、足音（安住しない＝止まらない時の流れ）と心の声が聞こえてきます。ドイツ語の歌詞を喋るように演奏したいので、チェロはクラシカル弓を使います。

1820年代にウィーンで流行したアルペッジョーネという楽器は、楽器製作者シュタウファーが考案した弓で弾くギターで、6弦を持ち、ギターと同じ調弦（ミ・ラ・レ・ソ・シ・ミ E-A-d-g-b-e）で、チェロのように脚に挟んで演奏します。16世紀までチェロの大きさは定まりませんでしたし、ギターも時代によって形や大きさが異なります。現在一般的に知られている楽器以外に、様々な（実験的な）楽器が作られてきました。アルペッジョーネはチェロのように朗々と鳴らすことができませんが、名前の通り、軽やかなアルペッジョ（分散和音）の音形を楽しむことができます。シューベルトは友人のアルペッジョーネ奏者に助言をもらいながら**アルペッジョーネとピアノのためのソナタ**を書いたのでしょう。19世紀の初めにはチェロにエンドピンをつけて弾くことは一般的ではありませんでした。当時の音楽に近づくためにエンドピン無しで演奏します。